

第29回自治体学会 奈良大会 プログラム一覧

2015. 8. 22(土) / なら100年会館ほか

大会統一テーマ 人口減少時代における地域の自治と連携の力 ～歴史と文化の“まほろば” 奈良で考えよう～

< 共通セミナー (10:00~12:15) >

人口減少への対応を地方分権の視点から考える

地方分権の国会決議から22年が経つが、その理念はどこまで浸透したのか。昨今のまち・ひと・しごと創生に関する動きなどからは、むしろ逆行が懸念される。午前の共通セミナーでは、定常型社会から日本の未来を考える神野直彦氏の特別講演や、分権・連携・内発的發展を軸とした有識者のパネル討議を通じて、いま一度、全員で基本に立ち返り、自治体学を追及する視座を確認する。

- 特別講演
神野 直彦 (東京大学名誉教授、地方財政審議会会長)
- パネリスト
大森 彌 (東京大学名誉教授、元学会代表運営委員)
仲川 げん (奈良市長)
松永 桂子 (大阪市立大学創造都市研究科准教授)
- コーディネーター
青山 彰久 (読売新聞東京本社編集委員)

< 学会賞表彰式 (12:15~12:45) >

< 分科会 (13:30~16:30) >

分科会 1 人口減少を見据えたまちづくり

人口減少社会においても将来に希望が持てる持続可能な地域社会の実現のために、「子どもを安心して産み育てられるまち」、「自然と生活が調和し人間らしい暮らしができる身の丈にあったまち」、「生涯にわたり地域の役に立ちたい人の思いを活かし課題を解決し魅力を磨き発揮できるまち」、「地域に根ざした生業が創発し継続できるまち」を支える政策としくみづくりを考えたい。

- パネリスト
西村 幸夫 (東京大学教授、学会代表運営委員)
栗山 忠昭 (奈良県川上村長)
中園 涼子 (NPO法人美山里山舎事務局)
辻村 修太郎 (京都府まちの公共員)
深尾 昌峰 (龍谷大学政策学部准教授)
- コーディネーター
真山 達志 (同志社大学副学長)

分科会 2 人口減少時代の計画行政

人口減少問題は避けて通れない社会問題とされ、来自治体が消滅する可能性も示唆される中、地方自治体においては人口減少問題に止まらず、財政問題や土地利用政策、議会の在り方等も踏まえた行政計画の必要性が迫られている。本分科会では、人口減少時代における安定成長型社会の形成に向けた計画行政の必要性や在り方について参加者と共に議論する。

- パネリスト
長野 基 (首都大学東京都市環境学部准教授)
桑島 健也 (所沢市議会議長)
橋詰 清一郎 (芦屋市役所職員)
- コーディネーター
富野 暉一郎 (龍谷大学名誉教授)

分科会 3 都道府県と小規模自治体との連携・役割分担

地方分権改革により、制度面で自治体の自主性・自律性の向上が図られたが、小規模自治体では、単独で権限の増加への対応が困難なケースもあり、都道府県や近隣自治体との連携など、水平・垂直補完による柔軟な対応が迫られている。

そこで、これまでの地方分権改革の到達点を概観し、奈良モデルを始めとするいくつかの事例を通して、先進的で柔軟な都道府県や近隣市町村との補完や連携について考える。

- パネリスト
石井 裕章 (奈良県地域振興部市町村振興課長)
森本 健次 (京都府南山城村むらづくり推進課長)
小西 砂千夫 (関西学院大学大学院教授)
大杉 覚 (首都大学東京大学院教授)
- コーディネーター
宮崎 伸光 (法政大学法学部教授)

分科会 4 地域自治組織の新たな可能性～住民パワーが自治を創る～

本格的な人口減少時代の到来が認識される時代にあつて、地域住民自治組織の活動や市町村の地域自治政策は、草創期から成長期に移りつつあり、それぞれの地域課題に応じた活動や組織づくりなどの面で新たな動きが始まっている。こうした地域自治の現場の動きを理解しながら、住民自治・地域自治の確立に向けた政策論的展望を議論したい。総論・現場の事例報告・政策課題の報告の後、討論を行う。

- 基調報告
中川 幾郎 (帝塚山大学名誉教授、学会代表運営員)
板持 周治 (雲南市地域振興課統括主幹)
- 報告者
篠山市くもべまちづくり協議会 (今井進、鈴木恵美)
大阪市の地域活動協議会 (発表者調整中)
奥村 和子 (名張市地域部長)
鈴木 明美 (高浜市総合政策グループ主幹)

分科会 5 大災害からの「復興」を実践から考える

災害が与えた壮絶な現場で、市民活動、民間企業、自治体・国などの取り組みのなかで、互いをどうとらえ、垣根を越えた取り組みがどのように行われたのか(行えなかったのか)、社会が縮小するなかでの災害とこれを超え「復興」とはなにか。阪神・淡路大震災、東日本大震災、紀伊半島大水害の被災とそこでの市民、首長、行政の奮闘から、すべての自治体に関わる問題として捉え、考えたい。

- パネリスト
山口 一史 (NPO法人ひょうご・まち・くらし研究所 常務理事)
岡本 全勝 (復興庁事務次官)
坪井 ゆづる (朝日新聞仙台北局長、東北復興取材センター長)
更谷 慈禧 (奈良県十津川村長)
- コーディネーター
金井 利之 (東京大学大学院教授、学会総務部会長)

分科会 6 (地元企画1) 資源をより合わせ、地域力を高める

人口減少問題に起因する地域経済の構造的な課題を勘案すれば、中長期的な地方再生施策に腰を据えて取り組むことが肝要である。奈良にはそれぞれのエリアに歴史のストーリーやそれに因んだ魅力、ポテンシャルは高いものと考えられる。これらの「奈良の魅力」をより創出するために、奈良の多様な主体がここに集まり、いくつかの事例を踏まえながら、新たな地域力、地域創生の手掛かりを見出せること等を論ずる。

- 基調報告
高市 早苗 (総務大臣)
- パネリスト
伊藤 忠通 (奈良県立大学学長兼副理事長)
綿谷 正之 (白藤学園理事長)
朝廣 佳子 (読売奈良ライフ代表取締役社長)
中野 聖子 (ホテルサンルート代表取締役社長)
- コーディネーター
新川 達郎 (同志社大学大学院教授)

分科会 7 (地元企画2) ならまちフィールドワーク

奈良市の旧市街地は太平洋戦争の戦災をまぬがれ、古くからの街並みが今もこのころ全国的にも希少な町である。元興寺の旧境内を中心とした地域を「ならまち」と呼び、日本の国家や文化の基礎が整った重要な時代である奈良時代の文化や風俗習慣が、年中行事などを通じて市民の暮らしの中に生き続けている。実際に歩き、目で見て体感することでその貴重な資源を評価し、あるべきまちづくりの課題や方向性を探るべく研究を行う。

- パネリスト
徳岡 健治 (奈良市奈良町にぎわい課長)
木原 勝彬 (奈良まちづくりセンター初代理事長)
辻村 泰善 (元興寺住職)
中川 直子 (奈良シイエフエムコミュニケーションズ 代表取締役)
- コーディネーター
室 雅博 (奈良まちづくりセンター前理事長、学会顧問)

分科会 8 (公募企画1) 「ひと・まち・であう／つくる／まなぶ」

～協働型課題解決(協働学習)を通じた地域づくりの試み～

「消滅自治体」を巡るいくつかの議論は、人口減少・高齢化・財政難の進行する地域社会において、次なる構想を描くことを躊躇させるのに十分な(否定的・悲観的)インパクトをもたらした。しかしながら、果たして、われわれには<退却戦・撤退戦>しか残されていないのだろうか。そこで、本分科会では、地域と大学等(ヨソモノ・ワカモノ)が連携して課題解決にあたる営為の中に、新しい自治の可能性や学びの方向性を見出し、事例に基づいた議論を展開してみたいと考えている。

- パネリスト
小竹森 晃 (あいまち門真ステーション職員)
田中 優 (大阪国際大学現代社会学部准教授)
村山 史世 (麻布大学生命・環境学部環境科学科専任講師)
- コメンテーター
畑 正夫 (兵庫県立大学地域創造機構教授)
- コーディネーター
藤井 功 (前宇治市職員/同志社大学・大阪国際大学講師)

分科会 9 (公募企画2) 転機を迎える空き家対策—政策法務の観点から

所沢市の事例を初めとする、自主条例制定による全国各地での空き家対策への取り組みは、「空き家対策の推進に関する特別措置法」の本年5月の全面施行と、老朽空き家放置の原因の一つである固定資産税軽減措置の見直しで、転機を迎えている。
こうした制度的な動きも踏まえて、①地域ごとの現状と、②これまでの空き家対策について振り返るとともに、③同法の制定等により解消される課題、生じる課題を整理し、④空き家問題の今後の実践的な解決につながる方策を議論する。

- パネリスト
榎本 好二 (市町村研修財団研究員・相模原市派遣)
久住 智治 (文京区教育委員会教育推進部長)
帖佐 直美 (流山市総務部総務課政策法務室長)
- コーディネーター
出石 稔 (関東学院大学法学部教授)

分科会 10 (公募企画3) プロボノが提案する「成果による協働」

企業人等によるビジネススキルや専門知識を活用した社会貢献活動「プロボノ」への注目が高まっている。
建設的で前向きな市民協働の手法として、今後、自治体は「プロボノ」をどのように活用していくことができるのか。すでに取り組みを行っている地域の事例発表を中心に、プロボノの成果、課題、可能性などについて掘り下げていく。

- パネリスト
井川 啓一郎 (大阪市民政局区政支援室地域資源担当)
坂谷 操 (奈良県生駒市市民活動推進センター所長)
鈴木 康久 (京都府府民力推進課長)
金井 文宏 (一般財団法人大阪市コミュニティ協会 都市コミュニティ研究室長)
- コーディネーター
嵯峨 生馬 (NPO法人サービスグラント代表理事)

分科会 11 (公募企画4) 自治体職員の現場実践と学会ネットワーク

行政機構では職員数は減少し続け、職員の日常業務や地域課題への悩みは深く、閉塞感が漂う職場もある。一方、地域の持続を目標に果敢に挑戦している自治体と、実践する職員がいる。実践する(してきた)職員の取り組み事例から今後求められている職員の在り方を探る。また、自治体学会のネットワークとローカル学会の役割や定年退職を迎えた会員のローカル学会活動への参画について論じる。

- パネリスト
青山 崇 (多治見市文化振興事業団常務理事)
鎌田 千市 (岩手県紫波町企画課公民連携室長)
古瀬 誠一 (島根自治体学会代表運営委員)
- コーディネーター
沼尾 波子 (日本大学経済学部教授)

公募研究発表セッション（8月22日(土)）

会員が自治の諸課題に取り組む実践報告、大学院生・研究者らによる研究成果などを発表し、会場の参加者と議論を深めます（報告者・報告テーマは自治体学会 HP 参照）。

セッションA	文化行政・観光行政と環境に優しいまちづくり	<10:00~12:15>
セッションB	少子高齢化の進展と政策形成	<10:00~12:15>
セッションC	地域資源の活用	<13:30~14:45>
セッションD	情報化社会と組織マネジメント	<13:30~14:45>
セッションE	連携・協働による政策形成とその手法	<14:50~16:30>
セッションF	政策課題と制度設計	<14:50~16:30>

ポスターセッション（8月22日(土) 9:30~16:00）

地域ブロック単位、個人・団体の報告書などの配布・展示、自治体の取組みの紹介、出版物の展示・配布等を通して、参加者が交流・意見交換できる場としてポスターセッションを開催します。12:15~13:30 をコアタイムとして、各ブースごとに担当者による参加内容の説明もあります。

特別企画 古都の夜なべ（8月21日(金) 20:00~22:30）

学会前夜・21日、古都・奈良、世界遺産・興福寺で夜が更けるまで語りませんか。自治を担う多様な人材が相集う自治体学会の魅力を感じることができる、自由な語り場を用意します。対話を通じて視野を広げ、新しい着想に出会い、多様な人々とつながっていきませんか。そこで培われるネットワークや知見は、明日に向かうそれぞれの参加者の力になるはずです。興福寺の特段のご協力をいただき、興福寺会館での開催、また冒頭には丹川良俊執事長にご講話をいただきます。

自治体学会奈良大会ならではの企画にぜひご参加下さい。

参加される方は、19時45分までに興福寺国宝館前に集合してください。茶菓代500円は当日徴収します。可能であれば、「地域の名物・名産」をお持ち頂き、アイスブレイクにご活用下さい。

なお、8月22日(土)の自治体学会に参加せず、特別企画のみに参加される方は、茶菓代のみで参加できます。（自治体学会参加費は不要です。）

自治体学会事務局からのお知らせ

◆8月22日(土)の参加者受付について

- ・受付場所：100年会館中ホールのホワイエで行います。
- ・受付時間：9時00分からになります。
午後後の分科会のみに参加される場合でも、必ず、100年会館中ホールで受付を済ませてください。

◆自治体学会総会について

- ・自治体学会の総会は8時30分から9時30分までの予定で、100年会館中ホールで行います。
- ・総会に出席される学会員の方は、8時25分までに直接「中ホール」にお越しください。
- ・総会終了後、共通セミナー開始前あるいは休憩時間等に適宜受付を済ませてください。

◆共通セミナー・分科会・研究発表等会場について

- ・100年会館中ホール及びはぐくみセンターが会場です。
- ・会場の一覧表を当日受付で配布いたします。

◆昼食会場について

- ・JR奈良駅周辺に飲食店がありますが、混雑等も予想されますので、昼食を持参するか、弁当の予約をお勧めします。
- ・弁当は、はぐくみセンター8階の各室でおとりいただくことができます。
(100年会館中ホール及び8階以外のはぐくみセンター内会場では、食事はできません。)